

こいぶみの前身「ひろしまる倶楽部」の表紙を飾ってくださったみなさんを、11年経過した今、再び訪れて「今」を話していただきました。



2009

都市部の農業を 家族で守り続ける

安佐南区中筋 なかがわ 中川 かつのり 勝則さん・久 くめこ 女子さん

「都市部で農業を続けていくには、良質な野菜づくりはもちろんだが、税金対策も必要」と語る勝則さん。中川さんご夫婦は50aの農地でシュンギクやホウレンソウ、サラダミズナなどを栽培しています。国道54号線やアストラムラインなど交通網が発達した中筋地区は、マンションや住宅、商業施設が増え都市開発が進んだ一方、高齢化や高額な固定資産税などの理由から農家も少しずつ少なくなり、

かつての農村の雰囲気
が失われつつあります。

市街化区域で農業を
続けていくのは簡単な

ことではないと感じていた勝則さんは、東京で都市型農業や生産緑地を学んだり、昭和55年に中筋野菜生産出荷組合の発起人となり設立にも尽力。また、安古市農事研究会の会長も28年務めるなど、さまざまな努力を続けてきました。また、久女子さんも民生委員を長年務めるなど勝則さんの傍ら一緒に地域農業を支えてきました。「農業をきっかけにたくさんの人と交流できた」と久女子さん。勝則さんも久女子さんのことを「細かな気遣いや会話で人付き合いが上手」と話します。

ご夫婦の努力や農業仲間の
尽力の甲斐もあって、良質な



2020

砂壤土で育つ野菜の産地「中筋ブランド」は、質の高さと仕上りの綺麗さで消費者の高い評価を得てすっかり定着しています。

以前から導入を求めてきた生産緑地制度が今年から広島市でも始まり、「継ぐなら早い方がいい」と思い切って役所勤めを退職し農業を継いでくれた娘夫婦の決断を後押ししたいと、申請の手続きもすぐされたそう。「最近孫も手伝ってくれる」と久女子さん。「家族で支え合っていくには、夫婦揃って元気でいることが大切！」と二人とも笑顔で話す中川家の農業はこれからも続いていきます。



▲中筋のマンションや住宅が立ち並ぶ中に中川さんの畑があります



▲農作業場に毎年訪れるツバメの巣。「自然環境も守っていきたい」と久女子さん